



「ガンマーカーが高くなってきたので検査を受けて見ますか」とのドクターの勧めで近く「前立腺生検」を受けることになりました。「検査の結果、どうするのですか」と尋ねると「高齢なので手術はしません。考えられるのは①ホルモン療法、②放射線療法、もう一つ③は何もしないことです。

80歳を超えての平均余命は10年、癌に罹ったときの余命も10年、つまり、してもしなくても余命は10年程度ということです。」ドクターの説明を聞きながら、結局、大切なことは見込まれるこれからの10年をどう生きるかなのだと思うに至った。そんな時、ある教会の週報に92歳の女性の召天記事に心うたれた。

・・・2006年、受洗。その後、癌による入退院を重ねながら、いつもベッドのそばに主がおられるのを感じ、同室の絶望している末期がんの患者の方に主にある平安を伝えることを使命とし、昨年、腎臓が機能しなくなったおり、透析を断り、主に召される時を待っておられました・・・。妙な言い方かもしれませんが、良い人生を生きることが素晴らしいのと同じように、良い死を死ぬこともまた素晴らしいと言えるのかもしれないとこれからの大きな課題に気づかされ、感謝しています。